

アコモード

タイムズ

第54号

編集・発行

社会福祉法人 アコモード

- 特別養護老人ホーム アコモード
- アコモード指定居宅介護支援事業所
- アコモードヘルパーステーション
- デイサービスセンター アコモード
- グループホーム アンダンテⅠ・Ⅱ
- ケアホーム アザレアⅠ・Ⅱ
- ケアホーム アヴァンセⅠ・Ⅱ
- ケアホーム アメリアⅠ・Ⅱ
- 特別養護老人ホーム アクイール
- デイサービスセンター アクイール
- キッズルーム アクイール
- キッズルーム アコモード
- アンジェリカ保育園
- 我孫子市老人福祉センターつつじ荘
- 我孫子市布佐・新木地区地域包括支援センター
- 我孫子市我孫子南地区地域包括支援センター
- アコモード相談支援事業所

千葉県我孫子市布佐1559-2

Tel.04 (7189) 5201・Fax.04 (7189) 5203

新年のご挨拶



社会福祉法人アコモード理事

渡邊 豊

令和六年を迎え年頭のご挨拶を申し上げます。能登半島地震により、犠牲になられた方々へのご冥福をお祈りし、被害にあわれました皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

また、被災地での生活の一日も早い復旧と復興を祈念いたします。

昨年は、新種の感染症対策で停滞していた世の中が、一つ一つ動き出してきた一年でありました。今年は、曇り空から晴天に。もう一步、二歩三歩と前進して法人にとっても、明るい一年にしていきたいと思えます。

ここ三年間は、コロナウイルスという言葉が新聞紙上で見ないことはありませんでしたが、今では、コロナウイルスに関する報道は、ほとんどなくなり、街中でもマスクをしていない人の方が多いような気がします。私たちは、マスクミによる情報によって、右往左往し、その「情報」によって、どう行動するかを決めていると実感しました。私が生まれた五十年前は、新聞、テレビ、ラジオ、回覧板、調べ物は辞書などで情報を得ていたでしょう。現代では、インターネットが普及し、パソコン、スマホ一つで料理の作り方や、海外での出

来事まで、知りたいことを瞬時に調べることができる時代となっています。今私たちの周りでは、正しい情報も間違った情報もたくさんあふれています。

人工知能(AI)が発達し、フェイクニュースなどの対策も必要です。これらの法人運営は、これらの情報を正確に見極めて利用者、地域、職員に還元していくことが重要になってきます。

さて、日本の社会情勢に目を向けてみると、団塊世代の方が、後期高齢者となる二〇二五年問題への階段をのぼり、この一年で到達します。福祉人材不足については、十数年も前から課題となっていました。解決せぬまま、さらに拍車をかけそうです。その先には、日本の人口の三割が高齢者となる二〇三〇年問題が待ち構えています。生産人口の減少で、どの業界も深刻な人材不足が押し寄せてきます。介護の現場でも最新のテクノロジーを集結して、ロボットの活用を目指しています。当法人でも、タブレット記録システムや眠りを可視化するシステム、コミュニケーションロボットなど最先端のロボットを導入して、利用者の生活に潤いと、職員の負担軽減を図る対策に乗り出しています。いかにロボット技術や人工知能が発達したとしても、福祉の現場は、「人」なしでは、成り立ちません。相手の置かれている立場を自分置き換えた接遇や利用者との信頼

関係を築いたうえで接遇、相手の気持ちを察知した接遇など、心の通った対応は、「人」にしかできないものであります。ホスピタリティ(もてなし)が必要な福祉の仕事は、やりがいを生みます。それと同時に、対価や働きやすさも兼ね備えた職業としなければならぬと思っています。そのためには、職員一人一人が専門職としての自覚を持ち、関わる全ての方を幸せにできるような接遇を身に着けることが求められます。そのような自覚を持った職員を大切にしながら、職場環境の整備を行ってまいります。そして、利用者からも、職員からも選ばれる施設を目指し、福祉人材の確保という競争を勝ち抜いていかねばなりません。法人内の各部署では、毎日利用者の幸せのためにとても良い取り組みや活動をしています。それが内部に埋もれないように今年は、その活動内容を「正しい情報」としてSNSなどで皆さんに発信していけたらと思っています。福祉業界は、SNSの活用が他業種に比べ、周回遅れとなっているような気がします。今年は人材確保・定着に情報発信も含めて力を入れていきますので皆様、楽しみにしていただけだと思います。

本年も、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

住み慣れた地域でいつまでも

特別養護老人ホームアクイール

生活相談員 金井雄司



超高齢社会を迎えている日本

総務省の発表によりますと、令和四年十月一日時点での高齢化率（六五歳以上の割合）は二九%ということで、日本はおよそ人口の三分の一、十人に三人が高齢者という、「超高齢社会」の真只中にいます。さらに二〇二五年には、団塊世代の方々が七五歳以上の後期高齢者となることから、国民の四人に一人が七五歳以上になるといわれています。

地域包括ケアシステムの必要性

医療や介護の需要が増えていく一方、少子化や介護人材不足が続くことから先、高齢者を支えることが益々難しくなる状況があります。「地域包括ケアシステム」とは、高齢者が自分らしい暮らしを人生の最期まで続けていける為に、必要なサービ

スを住み慣れた地域で一体的に受けられる体制のことで国が構築を推進しています。

我孫子市では「高齢者地域ささえあい会議・高齢者地域ささえあい活動」のなかで、介護保険制度などの公的なサービスだけではなく、地域のニーズに合った生活支援サービスの開発や調整が検討されています。

「高齢者なんでも相談室」の役割

我孫子市で地域包括ケアシステムの中心を担っている場所が、「高齢者なんでも相談室」です。各地区に五ヶ所設置されていますが、そのうち布佐・新木地区と我孫子南地区の二ヶ所を、市から委託を受けて社会福祉法人アコモードが運営しています。今回、布佐・新木地区なんでも相談室の室長に地域の実情や取り組み内容等を聞いてみました。

開設して何年ですか？

「平成二十三年度からなので十二年になります。」

市から最初に委託を受けたのが布佐・新木地区でした」



「なんでも相談室の地域の皆様からの認知度はどうですか？」

「地域の方々からの認知度も上がっていると思いますが、各関係機関（介護事業所・病院・民生委員・ケアマネ等）からは位置づけをよく理解してもらっていて、相談がまわってることが多くなりました」

よくある相談内容は？

「一番は介護保険や介護サービスについての相談ですね。日常生活の困りごとの電話も多いです。例えば、草刈りや病院に行くまでの方法、蜂や害虫の駆除、遺言を残したい、という相談等々」

本当に多岐にわたる内容ですね。

「どこに相談していいかわからないこともありますよね。そういった時はご相談下さい」

「まさに「なんでも」相談室ですね。各関係機関とはどのように連携していますか？」

「困難なケースを抱えるケアマネージャーがいれば一緒に同行したり、助言も行っています。病院の地域連携室のソーシャルワーカーと、退院後の生活について連携することも」

布佐・新木地区の地域状況や今後の課題は？

「我孫子市のなかでも高齢化率は高い方で、子どもが家を離れ、高齢の親御さんが残っている世帯が多いです。相談を受けて物事の判断が十分と思われるケースでは、その方の権利と尊厳を守る為、成年後見制度に繋げることもあります。」

また、高齢世帯で生活援助が必要な場合でも、ご本人が他人を家にあげたくない等でサービス提供まで至らないケースも。孤立死は防ぎたいので、見守り活動は続けていかなければなりません。

この地域では、介護保健サービス以外の、軽度の方達が通ったり集まったりできる場所がまだまだ少ないと感じています。

なんでも相談室では、定期的に介護教室を開催しています。スマホ講座やフレイル（健康な人と要介護の人の間、「介護が必要になる一歩手前」の状態のこと）予防等で、高齢になっても出来るだけ自分の家で生活できる地域を目指して頑張っています」



大切なケアマネージャー

在宅で暮らす支援が必要な高齢者や、介護施設に入居されている方のサービス調整を行っているのがケアマネージャーです。当然地域包括ケアを目指す上で重要な位置づけとなり、法人の居宅介護支援事業所でも日々ご利用者との関りが続けています。担当者は、「ケアマネージャーとしての経験が少ない者もありますが、事業所内で協力しあいながらご利用者が自宅での生活を続けられるよう毎日取り組んでいます」と笑顔で話してくれました。

地域包括ケアにおける 入居施設

地域包括ケアの考え方では、特別養護老人ホームのような入居施設も地域を構成する要素のひとつで、自宅で暮らせなくなった方の最後のうけ皿として重要な役割があります。ただ特養というと、閉鎖的、暗い、淋しい等、ネガティブなイメージを抱かれる方も少なくないのではないのでしょうか。コロナ禍における面会制限等で全国的に施設の「密室化」に拍車がかかったことでも、ご家族や地域の方の目が届きにくい状況がありました。法人では令和五年五月より、面会制限を解除しています。

私達は、人生の後半の「住まい」として選んでいただき入居された方々の、その方らしい生活を守ることも、サービスの質向上に努めることはもちろん、特別養護老人ホームを、地域から外れた「離れ小島」にしないよう、地域から望まれ、繋がりのある開かれた場所にすることを目指しています。以下に様々な活動を紹介します。



令和5年11月、認知症啓発イベント「RUN 伴+あびこ」に特養ご入居者も参加。市内横断のボタンをつなぎました。



令和5年8月、4年ぶりに開催された特別養護老人ホームアキールの夏まつり。ご家族や地域の方々に自由に参加していただきました。市内の障害福祉事業所の皆様には、ソフトクリームやアクセサリー、パンなどを出店していただき、交流を深めています。



自然災害が頻発や感染症の心配がある近年、感染症や災害発生時でも、サービスを安定して継続的に提供できる体制づくりを行っています。定期的に研修・防災訓練を実施。特養アコモード・アキールは災害時の指定福祉避難所にも指定されています。



業務効率化や職員の負担軽減のため、法人でも導入されてきているICT「情報通信技術」。コミュニケーションロボット「パルロ」は、ご入居者の話し相手や、体操やレクリエーションの場で活躍しています！



今後も「アクイール釣り倶楽部」としてご希望者を募り、定期的にお出かけしたいと思います。

十月十九日、柏市にある「座間養魚場」に行ってきました！以前から「釣りに行きたいけど無理か」と話されていたご入居者のご要望をやっと叶えることができました。屋内で車椅子対応もしているので、快適に釣りを楽しむことができたのでよかったです。

特別養護老人ホーム アコモード



10月、手足の運動レクリエーションとして、風船バレーやスリッパとばしを行いました。車椅子で生活されている方でも、今ある能力を使って笑顔で参加していただきました。

特別養護老人ホーム アクイール



九月、アコモード・アクイールの特養では、四年ぶりにご家族をお招きして敬老の日にお祝いの会を開催しました。アクイールは六名の方が一〇〇歳を超えて、お元気に過ごされています。

各事業所の活動

いつもの楽しみが戻ってききました



アコモード デイサービス



令和五年に入り、徐々に外出の機会を増やすことができています。お隣の印西市にある「木下万葉公園・木下交流の杜公園」にお出かけしてきました。

六月はあじさい鑑賞、十一月は高台の景色を目的に。高低差約二〇メートルの丘陵がある公園では、丘の上からは利根川や我孫子市内はもちろん、空気が澄んでいる時は富士山やスカイツリーまで臨めるとのこと。

残念ながらお出かけした日に富士山までは見ることはできませんでしたが、過ごしやすいく候で、利根川を見ながら「いい気分転換になった」と話される方も。皆さん久しぶりの外出を楽しまれたようでした。

アクイール デイサービス

12月15日、1年間の締めくくりとして「感謝祭」を開催しました！職員によるパンスト相撲で大笑いいただいた後、満を持して立浪部屋所属の大相撲力士、天空海（あくあ）関と一翔関が登場！押し合いや腕相撲、お姫様抱っこ等で皆さんと触れ合ってくださいました。最後の餅つきでは、軽々とした杵さばきであつという間につきあがり、大歓声。天空海関と一翔関、お忙しい中ありがとうございました。アクイール全体で応援します！



グループホーム アンダンテ



塗り絵が毎日の楽しみになっている青木さん。いくつになっても好きなことを続けていけるって素敵なことです！

十一月四～五日に開催された「布佐上町文化祭」に、ご入居者と協力して作った切り絵などを出品しました。

取り組んでいただいたお一人、青木春雄さんにお話を伺いました。「昔から絵が好き。国分寺出身で、当時は色鉛筆のような道具が簡単に手に入らなくて不自由しました。ここで自由に色を塗ることができてありがたい。より色鉛筆が好きになりました」



通常運営を目指すなか、以前からご要望の多かったカラオケの利用を11月15日から再開しています。松戸市のホームページ等を参考にしながら、席の配置、換気、順番の決め方等、しっかり感染予防対策を講じています。

音楽や歌声があると、館内により活気が戻ったように思います。久しぶりに歌うからか、曲名や歌詞を忘れてしまう方がいて、笑いあうことも。マイクを握らない方も聴き入って、和やかな雰囲気になっていきます。



老人福祉センター つつじ荘



カラオケと一緒に朝のラジオ体操も復活。みんなで体を動かすって気持ちがいいです。



アンジェリカ保育園



新しい取り組みのひとつとして、数年前から取り組んでいる「縦割り保育（異年齢保育）」。年齢でクラスを分けるのではなく、様々な年齢の子どもと一緒に保育するやり方です。アンジェリカ保育園では、幼児期（三～五歳）の混合で三クラスがあります。

それぞれの年齢の子ども達にとっていい刺激となっていて、小さい子どもは、大きな子どもがやっているのを見て、「自分

分もああいう風にやってみたい」という気持ちから、動機付け・やる気は生まれています。大きな子ども達は、小さい子にやり方などを教えてあげることで、達成感を得たり、いたわる心が育まれています。大人から一方的に教わるのではなく、様々な年齢の子ども達同士が主体となって関わり合い、それぞれのペースで成長して欲しいと考えています。

これまで行事は横割り、年齢ごとのクラスで行っていましたが、令和5年12月に初めて異年齢クラスでお楽しみ会を実施しました。クラスごとに自分達で選んだ絵本を題材にした劇を発表。衣装の作成など準備から子ども達と先生と一緒に協力して取り組みました。その過程では、自分達で考え選択しているので、のめり込み方が違います！



資格取得報告

令和五年

〈介護福祉士〉

脇山真紀さん(アキール特養)

小池円香さん(アキール特養)

〈ケアマネージャー〉

上田哲哉さん
(アコモード
デイサービス)



晴山美彩樹さん(アキール特養)
令和5年2月26日 第3子
結丞(けいすけ)くん



佐藤美咲さん(アンジェリカ保育園)
令和4年12月28日 第1子
希保(きほ)ちゃん



小八重早香さん(アコモード居宅)
令和5年11月11日 第1子
音葉(おとは)ちゃん



中澤み織りさん(アンジェリカ保育園)
令和5年7月23日 第1子
瑠美(るみ)ちゃん



鈴木倫代さん(アコモード看護師)
令和5年7月10日 第3子
美朝(みさ)ちゃん

出産報告

「ちばSDGsパートナー」
に登録しています!

「持続可能な
世界」を
達成する為に、
法人全体で
取り組んで
いきます!



ちばSDGs

ちばSDGsパートナー 353号



Instagram

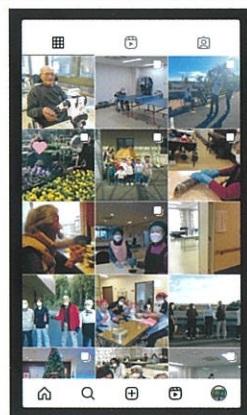
①アプリ「Instagram」
をインストール



②下のQRコードを読みとってください



@ACU6511



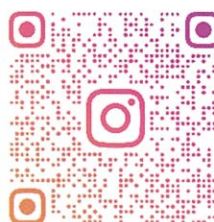
アキール(特養とデイサービス)
のいい所をもっと沢山の方たちに知っ
てもらえるように日々の様子を投稿
していきます!

アキールもInstagram
開設しました!

編集後記

二〇二四年は辰年、十二支のうち、
唯一の想像上の動物です。また、十二
支と十干(じっかん)を組み合わせた
ものを干支(えと)といい、今年は「甲
辰(きのえ・たつ)」と呼び、中国の
考え方では「春の日差しが、あまね
く成長を助ける」年であるというこ
と。アキールに入った坂道の途中に
ある、どんぶりに浸かった龍が活躍す
る年になりそうです。

(アキール広報委員 金井)



ABIKOANGELICA
アンジェリカ保育園



ACOMODER
アコモード

アコモード・アンジェリカ保育園のInstagramも
引き続きフォロー・シェアお願いします!